

# 公共施設をいかにして長く、大切に使うか 市議会総務常任委員会が公共施設の管理方法などで先進地視察

市の建物や橋などの寿命を10年、あるいは20年伸ばせないだろうか。そうすれば、財政的にずいぶん助かるはず……。そんな思いで公共施設の新たな維持管理手法、アセットマネジメントに取り組んでいる自治体が次々と出てきています。

そうした自治体のひとつ、福岡市を上越市議会総務常任委員会が19日、視察してきました。参加者は12人のメンバー全員。福岡市の財政局アセットマネジメント推進課の幹部の方たちから同市の取組について説明してもらい、意見交換（写真）しました。

アセットマネジメントは、「不動産などの資産について、最適な時期、規模による投資を行うことによりその価値を高め、利益の最大化を図ることを目的としています。また、単なる資産の管理だけではなく、最適な配置にするための取得、処分なども含んでいる」（日経B P社）といひま



福岡市が保有する主な施設は、建築物約2000施

設、道路総延長3800km、橋梁約2000橋、公園施設1550か所、ダム、浄水場などの水道施設、下水道施設、地下鉄施設などです。大きな都市ですが、集落排水処理施設もありません。アセットマネジメント推進課の幹部からは、パワーポイントを使って、アセットマネジメント基本方針の策定に至った経緯、アセットマネジメント実行計画と導入による効果などについて説明してもらいました。

総務常任委員会メンバーからは、「施設を長く使うことによつて更新時期を先にのばすことは理解できるが、一斉に更新時期を迎えないようにするための計画的な更新が必要なのではないか」「建物の劣化状況を把握するためのチェックシート、チェックポイントは作成されているのか」「学校耐震化を平成23年度までに完了させるといふ方針はすばらしい。どういう経過で決まったのか」などの質問や意見が次々と出されました。いい勉強になったと思います。

説明のなかで印象に残ったのは、従来の「大量生産・大量消費」時代の「新規整備」ではなく、既存施設を大切に長く使い続ける「維持管理重視」に切り替えていくことが大事だということ。技術スタッフがいる施設では、それなりに日常点検などをやっているのだから問題はないが、そうでない施設でも取り組める方針と体制が求められているというのもうなずけることでした。

## 旧14市町村間の均衡崩れないか

市と地域協議会の意見交換会が14日、15日

と3会場で行われました。このうち、浦川原会場の意見交換会を傍聴してきました。テーマは地域事業費制度見直しです。

意見交換会では、「各区共通して心配しているのは中心市街地に予算が行ってしまうのではないかということだ。今回、4部門で優先度についての基準（考え方）が示されているが、心配を払拭する方法としてはいいことだと思う」（安塚区、石野委員）、「これで果たして国や県からOKが出るのかという疑問がある。地域事業費制度の見直しによつて（旧14市町村間の）均衡がくずれのではないか」（大島区、石塚会長）、「土地開発公社問題で、市は後手に回っているのではないか。もっと早く措置すべきだった。地域事業費制度は4年前に見直しを考えるべきだった。市の幹部にはもっと危機意識を持つてほしい」（浦川原区、村松委員）などの意見や質問が次々と出されました。

地域事業費制度見直し問題は次号でも続報する予定です。



シリーズ 上越市内の橋

第72回 上原橋

「上原橋」と書いて「かみはらばし」と読みます。吉川にかかった橋で、市道上下浜線にありま

柿崎区上金原と上直海をつなぎます。上直海側から見ると、米山の姿がよく見えます。橋の西側には上直海児童館と正福寺があり、南東部には小さなブドウ園があります。橋の長さは約45メートル。竣工は1980年3月です。

# 春よ来い 第一六三回 スモモ

スモモを好きになったのはいつ頃からのことか。実が熟す頃になると、スモモのことが気になって、何となくそわそわしてしまいます。甘酸っぱい味が口のなかに広がる、それを想像するだけで幸せな気分になります。

考えてみれば、私は子どもの頃からずっとスモモの木のそばに住んでいました。虫場に住んでいた時には、わが家の前庭から一〇メートルほどのところにスモモの木が一本ありました。田植えが終わってまもなく、黄色い野イチゴを食べることができるようになります。その楽しみがなくなった頃、今度はこのスモモの実が注目の的でした。わが家のキョウダイだけでなく、近くの遊び仲間もみんな、いつスモモが食べられるようになるかを見ていました。

そんなこともあって、スモモが熟す時期を待つ習慣みたいなものが身についています。今年も小さな実がなり始めてから、時々、スモモの木を観察してきました。

現在、わが家の庭にあるスモモの木は亡き父が苗木を買ってきて育てたもの。幹の直径は二〇センチほどで、高さは五メートルくらいになりました。地面から一メートル五〇センチほどのところで二つに分かれ、枝を東西南北に広げています。

木を下から見上げて観察する場合、実が小さな頃は探すのが難しいものの、実が大きくなるに従って、すぐにわかるようになります。問題は実が大きくなってから。熟す一歩手前の実か、それともすでに熟したものかどうか、これは見ただけではなかなか判断が付きません。直接手にふれてみるか、口のなかに入れてみるかしないと、なかなかわからないのです。

先月の三〇日頃のことでした。スモモの木のそばに行くと、実はすでに大きくなっていて、小さいものでも直径三センチ、大きいものになると直径五センチにもなっていました。一番低い枝についていたスモモを一個だけもぎ、手で表面をさつとふいて口のなかに入れてみました。実はしっかりとふいて、歯ごたえがあります。口のなかでじわっと広がった味は甘酸っぱくて、十分食べられる状態になっていました。「この味だ、この味だ」と喜びながら、立て続けに三個ほど食べました。

食べることに夢中になっていると、目の前にあるスモモの木のことから離れませんが、よその家のスモモのなかにもいいものがあります。その代表格は虫場の叔父の家にあったスモモでした。実の表面は緑ですが、中身は赤く、甘味はわが家のものよりも上でした。子どもの頃は、いつももらえるかと楽しみにしていたものです。

話を元に戻しましょう。わが家のスモモは今年あまり生りませんでした。加えて、虫に食われてしまい、落下するものも少なくありませんでした。私が食べたスモモは、五日間ほどの間で二〇個ほどです。昨年、大きなかごに入りきれないほどたくさん採れたので、今年はいっぱいはならない年だと、ある程度は覚悟していたのですが、がっかりでした。

そうしたなかで先日、吉川区内で「しんぶん赤旗」日曜版の配達をしていた時、こんなことがありました。畑にいたTさんが、近くにあるスモモをもらってきて、ニコニコしながら私の手に二個渡してくださったのです。

スモモの色はわが家のものよりも赤みがあって、とても美味しそうでした。すぐにも食べたかったのですが、そこは遠慮して、車を少し走らせてからいただきました。それにしても、美味しいものをお裾分けしてくれる人がいるって、うれしい。

## 上川谷の郵便ポスト、30日で廃止

残念なお知らせをひとつしなければなりません。吉川区上川谷にあった郵便ポストが今月の30日の午前10時で廃止されることが決まりました。



上川谷は吉川区の最も東側の集落ですが、過疎化が一気に進み、現在住んでいるのは5世帯8人となってしまいました。確かに、人が少ないのでポストを利用する人は以前よりも少なくなっています。でも、高齢化がどんどん進むなかで、近くにポストがなければますます不自由になります。

ポストの郵便物を集める最後は30日の午前10時。30日は土曜日ですので、「しんぶん赤旗」の配達をしながら最後を見届けたいと思います。

## 猛暑の日は清水が一番

暑い日が続いています。気温が35度を上回った日も出てきました。

市内には、清水の出ているところが何か所もあります。

先日、吉川区の高沢入と大島区の板山で美味しい清水を味わってきました。そこでは、



車を止めて、顔を洗い、両腕を洗いました。水は思った以上に冷たく、5秒ほど水をかけたただけでしびれがきます。いいもんですね。みなさんから涼んでもらうために写真を一枚ごらんいただきましょう。大島区板山の清水です。不動尊公園の入り口にあります。

## 干びょうづくり盛ん



いま、夏の暑さを利用して各地で干びょうづくりが盛んに行われています。

写真は吉川区小苗代地内で16日に撮影したものです。